

## 人民元・東南アジア通貨の資金・決済環境の変化と通貨選択の関係性

学習院大学(博士後期課程)

財務総合政策研究所

富澤 克行

企業のグローバルな貿易・投資取引での通貨選択や資金決済においては、ドル建てが依然として支配的であり、人民元国際化の取組みの中でも人民元が貿易・投資取引の決済等で用いられる割合は依然として限られていることが、SWIFT のデータ等を用いて指摘されている。その一方で、中国と東南アジア各国の関係に目を向けると、貿易・投資といった経済活動の緊密化が進み、そうした実需取引を下支えする通貨・金融面における協力関係強化の取組みが並行して進められている。二国間の自国(現地)通貨建て貿易・投資取引促進の協力枠組み、二国間通貨スワップ取極め締結やクロスボーダー人民元決済網の整備といった取組みに加えて、東南アジア等の中国の周辺諸国との間では、自国通貨同士の為替ペアによる銀行間外為取引市場(米ドルを挟まない、いわゆる直接交換市場)を創設する試みも行われている。また、東南アジア側でも人民元や現地通貨を用いた取引を促進する施策が進められているほか、同地域で急速に進む経済・金融デジタル化の流れの中で、クロスボーダー取引・決済での通貨使用に変化が生まれる可能性がある。

本稿では、中国、東南アジア各国の間で進められている自国通貨建て取引・決済を促進する各種政策やその促進効果に関する先行研究を基礎として、併せて中国国内の自国通貨同士の直接交換市場の取引データを分析することで、中国と周辺諸国・地域との取引における実際の通貨選択がどのように変化しているのか、また、その変化の要因との関係性を考える。